

土木学会 平成17年度 重点研究課題
= コンクリート標準示方書のアジア地域への展開戦略に関する研究 =
コンクリート委員会

- コンクリート工学に関する JSCE-VIFCEA ワークショップを開催 -

土木学会コンクリート委員会（当時委員長：丸山久一 長岡技術科学大学理事・副学長）は、平成17年度重点研究課題の配備を受けて、2005年12月9日にベトナムのホーチミン市工科大学（HCMUT）で、ベトナム土木工学協会連合（Vietnam Federation of Civil Engineering Associations）と、土木学会コンクリート標準示方書のアジア地域、特にベトナムへの展開戦略に関するワークショップを開催し、将来に向けた技術協力の可能性について意見交換ならびに実質的な行動指針について議論する機会を設けた。本文はその概要と戦略研究の成果を報告するものである。なお、本ワークショップは12月8日に開催されたベトナム-日本共同セミナーと連続したスケジュールで開催された。

コンクリート委員会は、コンクリート標準示方書の改訂と不断のレベルアップを語りつつ、これを海外の社会基盤整備事業に活用する道を探索してきた。そのための必要条件として標準示方書の英訳を進め、当ワークショップに間に合うように、コンクリート委員会委員の献身的な努力を得て英文化を2005年に完成させた。また、英文のNewsletterを定期発行する体制を整え、電子メールによる1000を超える発送先に定期的に送る体制を整備した。関連基準類の英訳も平行して行い、主たる指針類（コンクリートライブラリー掲載）の英文化を整備した。これをアジア地域の展開戦略の不可分の情報資産として用意して、ワークショップに臨んだ。

丸山久一コンクリート委員会委員長（当時）のワークショップ開会の挨拶に続いて、東京大学・前川宏一幹事長（当時：重点課題申請者）による土木学会コンクリート委員会における広範な活動内容についての紹介が行われた。ここで、国際戦略の準備として用意した英文示方書全巻を参加者全員に回覧し、日本側からの具体的な協力形態を示した。なお、この機会が英文示方書の最初のお披露目ともなった。これに対して多くの質問があり、日本に関する関心の高さが窺われた。日本側からは、さらにコンクリート委員会国際関連小委員会委員長の堺孝司氏（香川大学）、宇治公隆氏（当時コンクリート委員会幹事）、横田弘氏（当時コンクリート委員会次期幹事長）、河井徹氏（清水建設）、吉岡民夫（オリエンタル建設）が参加した。

ベトナム側からは、ハノイ土木工学大学のLu教授が、前建設大臣が会長を務めるVIFCEの活動内容や政府との関係等について説明した。日本とは異なる意志決定システムと体制をこの機会に得ることができたことは、後述のプロジェクト立ち上げの準備に対して有益な情報となった。また、ホーチミン市土木技術者協会の会長で元建設副大臣のHoang氏は、ベトナム建設業界の現況を紹介するとともに、若い建設技術者の教育・訓練のためのセンターを開設したこと、日本から学ぶことがたくさんあること等について述べられた。ハノ

イ土木工学大学の Boi 教授は、ベトナムの土木技術の現状について詳細に言及された。3 人の討議は、日本に対する大きな期待を滲ませる内容であった。また、土木学会コンクリート委員会が実質的にできる支援内容の具体を提示したことで、先方の意志決定をより円滑なものにできると期待される。なお、約 60 名のベトナム側からのオブザーバー（産業界、官界、学会、若干名の学生）も参加した。

以上のワークショップでの議論から、最終的に以下の「ワークショップ宣言」を双方が採択した。

- (1) JSCE-VIFCEA ワークショップ参加者は、コンクリート示方書に関する委員会を設置することに合意する。
- (2) JSCE-VIFCEA ワークショップ参加者は、共同研究ネットワークを形成するための努力をする。
- (3) この合意を実現するために、両者はできるだけ早く適切な手段を講じる。

ベトナムは、コンクリート構造設計、施工管理等に関する示方書類が整備途上であるが、2010 年までに自前のコード類を整備することを国策と位置づけている。今後、継続して社会基盤整備事業が展開される素地を示しており、日本企業の参入も既に少なくない状況に機が熟しつつある。これらを鑑み、また、ベトナム側の対応と先方の意志決定の流れを今回のワークショップで得て、今後、土木学会コンクリート標準示方書の技術情報を提供し、ベトナムの示方書作成に資することは国際貢献として有意義であり、土木学会コンクリート委員会の国際展開のひとつとして積極的に対応可能であることが、大凡、明らかにすることができた。

現在、この戦略研究の結果を受けて、プロジェクトの具体化を図る努力をしている。ベトナム政府側から JICA に対して、標準示方書類の展開を図ることを目的とする援助プロジェクトを立ち上げる支援を、コンクリート委員会国際小委員会を通じて行っている。ベトナム建設省側ではトップランクのプロジェクトとして日本政府に協力の申請を行うとのことであり、申請書作成の最後の段階にある。これを支援する意味も含めて堺 教授(国際小委員会委員長)がベトナム政府を再度、訪れ、具体の最終打合せを行った。採択には多くの関門が控えているが、ワークショップで得た方向づけをもって国際貢献の一助となれば、幸いである。

文責 前川 宏一（重点研究代表者、前コンクリート委員会幹事長）



写真 1 開会式の様子(堺氏提供)